

平成 25 年度

川崎市立中学校 学習状況調査 報告書

川崎市教育委員会・川崎市立中学校長会

はじめに

川崎市教育委員会
教育長 渡邊 直美

OECD生徒の学習到達度調査（PISA）の2012年調査国際結果の要約が、昨年12月に公表されました。3年前の調査結果と比較して、読解力等の結果が上昇していること、無答率が減少していること、授業の雰囲気や先生との関係が良くなったことなどが報告されました。本市におきましても、子どもたちの「確かな学力」を育成するために、学習意欲の向上や思考力・判断力・表現力等の育成などの授業改善にむけて、様々な取組を進めております。

川崎市立中学校学習診断テストは、昭和43年に始まり、今年度は46回目の実施となります。平成17年度からは、「かわさき教育プラン」の「学校の教育力を高め、確かな学力を育成する」という重点施策に則り、川崎市立中学校学習状況調査として位置づけ実施してきました。調査は、国語、社会、数学、理科、英語の各教科に関するテストとともに、2年生については生活や学習に関するアンケートをあわせて実施しております。

調査問題に関しましては、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容が子どもたちに確実に身に付いているかどうかを把握するために作成しております。具体的には、学習指導要領の改訂の趣旨には、「確かな学力」を育成するために、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視することが示されており、基礎的・基本的な知識・技能を問う問題だけでなく、思考力・判断力・表現力等についても把握できるように出題しております。このような視点で、作問委員の皆様には、質の高い出題ができるように、内容の検討を重ねていただきました。そして、調査が日頃の指導の改善に役立てられるよう、本報告書の作成にもご尽力いただきました。

各学校におかれましては、本調査の趣旨をご理解のうえ、指導方法や教育課程編成の改善等にご活用いただければ幸いです。特に、調査対象学年以外の先生方や調査対象教科以外の先生方も含めて、学校全体で活用していただくことを期待しております。

最後になりますが、本調査の運営・実施にあたってご尽力いただきました中学校現職教育委員会をはじめとする川崎市立中学校長会に厚くお礼申しあげます。

平成25年度「川崎市立中学校学習診断テスト」のまとめにあたって

川崎市立中学校長会
会長 元吉 正典

学習指導要領では、確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成の双方が重要であることが述べられております。各学校におかれましては、このような趣旨の実現に向けて教育課程の編成等に取り組まれていることと存じます。

川崎市では、教育に関する総合計画「かわさき教育プラン」を策定し、さまざまな教育施策を展開しております。確かな学力の育成は「かわさき教育プラン」においても大きな柱であり、川崎市立中学校学習状況調査は、本市の子どもたちの確かな学力の育成のための事業の一つとして位置づけられております。

川崎市立中学校学習診断テストは、昭和43年度より校長会の委託事業として市内の全中学生を対象に毎年実施されております。平成17年度からは、「かわさき教育プラン」に則り、2年生については川崎市立中学校学習状況調査として5教科のテストとともに、生活や学習についてのアンケートもあわせて実施しています。

学習診断テストの目的は、各学校が一人一人の生徒の学力や学習状況を的確に把握し、教育課程の編成や指導方法の検証・改善を図ること、生徒と保護者に学習状況を伝え、家庭での学習習慣の確立に役立てること等があげられております。このような趣旨に則り、テスト問題の作成につきましては、これまで以上に思考力、判断力、表現力等に関する問題を工夫しました。また、個人票を見直し、子どもたちの学習状況をより把握しやすくできるように改善をいたしました。

本報告書は、5教科に関する調査について出題の趣旨や正答及び今後の指導にあたっての留意点をまとめております。また、生活や学習のアンケートによる生徒の学習状況の調査結果と分析を掲載いたしました。各学校におかれましては、本報告書をご活用いただき、自校の結果や分析を行うことで、生徒の教科指導や学習状況の改善等に役立てていただきたいと存じます。

最後になりますが、学習診断テストの実施に際しまして、ご尽力いただきました、川崎市教育委員会、校長会現職教育委員会及び教育研究会の各教科部会、教頭会の皆様には多大な労苦をおかけしました。心より感謝申し上げます。

目次

I	調査の概要	
1.	調査の目的	5
2.	調査の内容	5
3.	調査の対象	5
4.	調査実施日及び調査対象人数	5
	(1) 調査実施日	5
	(2) 調査対象人数	5
II	調査結果の概要	
1.	国語	9
	誤答分析と学習指導上の考察	9
2.	社会	31
	誤答分析と学習指導上の考察	31
3.	数学	51
	誤答分析と学習指導上の考察	51
4.	理科	71
	誤答分析と学習指導上の考察	71
5.	英語	91
	誤答分析と学習指導上の考察	91
III	生活や学習についてのアンケート	
	調査の概要	111
	調査結果と分析	112
	単純集計	112
	クロス集計	121
	各教科の正答率との相関	129
	資料 調査結果集計表	132
IV	問題用紙・解答用紙・アンケート質問紙	
	国語	141
	社会	170
	数学	208
	理科	222
	英語	261
	生活や学習についてのアンケート	290

I 調査の概要

1. 調査の目的

全市的な規模で生徒の学習状況を調査することにより、学習指導上の課題を明らかにする。その結果を、各学校においては、今後の学習指導法の改善や教育課程編成の工夫等、生徒の基礎学力の向上に役立てる。

2. 調査の内容

○国語・社会・数学・理科・英語

調査の目的に基づき、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項について、各教科の出題範囲に基づいて、全学年を対象とする調査を実施した。

○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

生徒の生活や学習に対する意識等について明らかにするために、第2学年の生徒を対象とする調査を実施した。

3. 調査の対象

市内全市立中学校の全学年の生徒

4. 調査実施日及び調査対象人数

(1) 調査実施日	平成25年11月6日（水）	
(2) 調査対象人数	中学校第1学年	9,672人
	中学校第2学年	8,793人
	中学校第3学年	9,631人
	生活や学習についてのアンケート	8,782人

Ⅱ 調査結果の概要

